

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>(I)「アルトウンシティにおける基礎医療サービスの設置事業」、並びに (II)「トプザワにおける基礎医療サービス施設の移設事業」を通じ、それぞれ平均15人/日、平均134人/日が基礎医療を享受できるようになった。また、(III)予防医療事業の実施により、モニタリング対象者13人中、11人の健康指標に改善が見られた。以上のことから上位目標である「クルド自治区エルビル県における国内避難民及びホストコミュニティの健康が守られ、促進される。」を一定程度達成したと考える。</p>
(2) 事業内容	<p>(I)アルトウンシティにおける基礎医療サービス施設の新設事業 (I-a)一般内科、小児科、産婦人科、歯科、検査部、処置室、検査部、X線撮影室、薬剤部からなる基礎医療サービス施設を開設するためにエルビル保健局の既存の医療施設に必要な医療器材、資材を設置した。 また、上記に加え、予防接種室、母子保健室を設置し、当初計画以上にプライマリヘルスケアを実施できる医療体制を整えた。また、予防接種科、母子保健室の増設に伴い、一部資材の追加購入を行った。</p> <p>(II)リズィガリ地区トプザワにおける基礎医療サービス施設の移設事業 (II-a)一般内科、小児科、産婦人科、歯科、検査部、処置室、検査部、X線撮影室、薬剤部からなる基礎医療サービス施設を開設するためにエルビル保健局の既存の医療施設に必要な医療器材、資材を設置した。 また上記に加え、予防接種室、母子保健室を設置し、当初計画以上にプライマリヘルスケアを実施できる体制を整えた。また、予防接種科、母子保健室の増設に伴い、一部資材の追加購入を行った。また薬剤部窓口、並びに発電設備において遮光のための庇を設置するなど施設の補強を行った。</p> <p>(III)『予防医療事業』 (III-a)慢性疾患予防講座 専門家による慢性疾患予防講座を計4回実施し、約200人が受講した。 (III-b)予防パンフレットの配布 専門家による予防講座をパンフレット化し、各医療施設において約2,000人に配布し、予防を呼びかけた。 事業地：アインカワ地区、ハルシャム地区、ゼイリーン地区、ゼイトゥーン地区、アルトウンシティ地区、リズィガリ地区</p> <p>(III-c)ヘルスプロモーション事業（当初計画になし） 2016年度以降NGO連携無償資金により設置した5つの医療施設（PHC）において、国際移住機関(IOM)の協力の下、医療サービスのアセスメント、並びにサービス向上ワークショップを実施した。その結果に基づき、各施設のサービス改善対策の実施や疾病予防対策の一環として外来患者を対象としたヘルスプロモーションビデオを常時放映し、患者による自主的な健康管理の実践を促進した。 事業地：ハルシャム地区、ゼイリーン地区、ゼイトゥーン地区、アルトウンシティ地区、リズィガリ地区</p>

<p>(3) 達成された成果</p>	<p>(Ⅰ)『アルトゥンシティにおける基礎医療サービス施設の新設事業』</p> <p>期待される成果 目標：外来患者 70/日が基礎医療サービスを楽しむことができるようになる。 成果を測る指標：施設の統計情報から確認する 実際の成果：外来患者 平均 15 人/日（統計期間 2018, 10～2019. 5）が基礎医療サービスを楽しむ。</p> <p>当初の目標の 20%程度の達成率に留まった理由として、当該施設勤務の職員が集まるまでに時間を要し、開業当初は一部の診療科のみで運営を行っていたこと、また、当該施設への公共電気供給に支障が生じたため、2019 年 12 月から、2019 年 2 月半ばにかけてサービスの一部を休業せざるを得なくなったこと、また放射線科に関して、建物の構造上、現像室を別室に移す作業が必要になったため、一時施設を休業したことが主な理由である。現在では上記の問題は解消され、すべての診療科が業務を行っている。外来患者も増加傾向にある。</p> <p>(Ⅱ)『リズィガリ地区における基礎医療サービス施設の移設事業』</p> <p>目標：外来患者 100 人/日が基礎医療サービスを楽しむことができるようになる。 成果を測る指標施設の統計情報から確認する 実際の成果：外来患者平均 134 人/日（統計期間 2018, 10～2019. 5）が基礎医療サービスを楽しむ。当初目標の 134%の達成率となった。</p> <p>事業 (Ⅰ) (Ⅱ)において、公共の基礎医療施設を設置することによりあらゆる年齢層の患者のべ 26, 127 人が経済的負担なく基礎保健サービスを楽しむできた（統計期間 2018, 10～2019. 5）。また (Ⅰ) (Ⅱ)それぞれの施設に予防接種室を設置し、両施設合わせて、のべ 3, 243 人が予防接種を受けた。（統計期間 2018, 10～2019. 5）、以上のことから当該事業は SDGs 3. 8『すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。』に貢献したと考える。</p> <p>また、産婦人科に加え当初計画にはなかった母子保健/栄養指導室をそれぞれの施設に設置したことにより、アルトゥンシティ地区 63 人、リズィガリ地区 56 人が保健師による指導を受けることができた。（統計期間 2018, 10～2019. 5）。これにより、当該事業は SDGs 3. 1『2030 年まで世界の妊産婦の死亡率を出生 10 万人当たり 70 人未満に削減する』、及び、SDGs 3. 2『すべての国が新生児死亡率を出生 1, 000 件中、12 件以下まで減らし、5 歳以下死亡率を少なくとも出生 1, 000 件中、25 件以下まで減らすことを目指し、2030 年までに新生児及び 5 歳未満児の予防可能な死亡を根絶する』に貢献したと考える。</p> <p>(Ⅲ)『予防医療事業』</p> <p>(Ⅲ-a) 慢性疾患予防講座の実施 (Ⅲ-b) 予防パンフレットの配布</p> <p>期待される成果 『慢性疾患予防講座』の受講者、『予防パンフレット』の指針の実践者の健康状態が改善する。 期待される成果： 予防指導を受けた避難民 10 人のうち 7 人（70%）の血圧、体重、血糖値などが指導によって改善される。 成果を測る指標：BMI 値及び、医療専門家による経過観察。 実際の成果：予防医療指導の受講者 13 人のうち、11 人（85%）に BMI 値の改善が見られ（別添資料「予防医療事業 BMI 値」参照）、また 12 人（92%）が自身の健康改善を実感したと答えた。※血糖値測定は直接医療行為</p>
--------------------	--

	<p>に該当するため、本事業の指標からは除外した。血圧については有意な変化が見られなかったため、BMI 値のみを参考とした。</p> <p>(Ⅲ-c)ヘルスプロモーション事業 当初の事業計画にはなかったため、評価基準は設けていない。 今後は、映像コンテンツをアップデートし、様々な観点から健康維持促進を図る予定である。</p> <p>(総括) 当該事業を以て2016年以来継続してきたエルビル市郊外における基礎医療施設の設置を完了した。同事業を通じ医療サービスが手薄な地域をほぼカバーし、エルビル市における医療体制を強化した。今後は同施設を単なる医療施設ではなく、予防医療やコミュニティ形成の拠点として機能するよう発展させる。</p>
(4) 持続発展性	<p>(Ⅰ)『アルトンシティにおける基礎医療サービス施設の新設事業』 医療資機材については、エルビル県保健局ダシュティハウレール支部に既に引き継ぎが完了し、維持管理されているが、必要に応じて事業完了後も自己資金により医療資機材の維持管理をサポートする。</p> <p>(Ⅱ)『リズィガリ地区における基礎医療サービス施設の移設事業』 医療資機材については、エルビル県保健局ハバート支部によって既に引き継ぎが完了し、維持管理されているが、必要に応じて事業完了後も自己資金により、医療資機材の維持管理をサポートする。また、弊団体では、これまで実施したすべてのN連事業実施地において、事業期間終了後も継続的なフォローアップを行っている。上記(Ⅰ)(Ⅱ)における人員については、エルビル保健局、ニナワ県保健局が継続的に供給する。</p> <p>(Ⅲ)『予防医療事業』 (Ⅲ-a)慢性疾患予防講座 については現地医療従事者らに対して指導法のレクチャーを行い、事業期間終了後も現地医療従事者らによる実施が可能である。</p> <p>(Ⅲ-b)予防パンフレット配布については事業終了後も自己資金によりパンフレットを作成し、事業地にて配布する。</p> <p>(Ⅲ-c)またIOMとの共同で設置したモニタにおいて、ヘルスプロモーション映像を常時放映することで患者による自主的な健康管理を促進している。また映像コンテンツは適宜更新される予定である。</p>